

地域リポ！～『わが街の名物コーチ（浜風小学校区）』～

芦屋市内の地域でスポーツに関する活動を行っている人や団体を紹介するコーナー（第4弾）です！今回は浜風コミスクに所属する浜風スターズで、長年子ども達を指導しておられる樋口文夫さんを取材させていただきました。

① 指導歴及び指導者を志したきっかけは何ですか？

西宮市から芦屋市に引っ越ししてきた平成2（1990）年からです。

当時2年生の息子が野球をしてもいいと言ってくれたので、その年の夏休みからスターズにお世話になりました。



② 野球の魅力は？

野球は子どもから大人まで幅広い年齢層の方が親しみを持つスポーツです。

最初はキャッチボールもできなかった子ども達が年を重ねるに従い、野球というものが分かってきて、上手になってきます。その過程が楽しみですね。

樋口文夫さん
浜風スターズ 代表
芦屋市野球協会会長

③ 指導をする上でのこだわりは？

速いボールを投げができる子はもっと速く投げる、ボールを遠くに飛ばすことができる子はもっと強くバットを振る、まだそこまでいかない子は大きな声を出す、全力で走るなど、「自分のできることは精一杯頑張ること」を大切にして欲しいです。



④ 指導者を続けていて良かったことは？

「仕事以外のことで地域の方々や地域の組織の一員となれること」です。阪神淡路大震災の時は色々助けてもらいました。また、卒業しても子ども達が小学校のグラウンドに顔を見てくれるし、近所で会えば挨拶してくれる。子どもがお父さん・お母さんになり、自分の子どもをチームに入ってくれる、といったことも嬉しいですね。



⑤ これからの展望は？

少子化の影響もありますが、スポーツの多様性が顕著になり、野球人口が減少してきました。大谷効果などで野球人口が少しでも増えられたら嬉しいです。



取材当日、この夏の甲子園に出場した名門校で主将を務める高校球児が里帰り。憧れの先輩の言葉に聞き入る子どもたち。



浜風スターズの皆さん、快く取材に応じて頂き、ありがとうございました。



皆さん、小学生ながら美しいフォームをしていました。

《編集後記》

- 部活動の地域移行に向けて、芦屋市でも地域クラブの募集が始まった。これまで中学生が負担感なく、部活動で指導を受けることができていたことを当たり前のように感じてしまうが、それは教員の皆様の尊い尽力があってこそであるということを忘れてはならない。スポーツや文化活動の価値を軽んじることなく、地域移行が中学生と、指導に携わる方々の両者にとって良い形で進むことを願っている。
- 「ラジオ体操」「ウォーキング」、ともに身体を動かし心身の健康を保つ立派なスポーツである。今回、スポーツの競技以外の部分について専門委員が記事を執筆し。市民の皆様にお伝えできることは意義深いと感じている。
- 地域リポでは、甲子園で活躍する高校球児が、少年野球チームから育っていることを目の当たりにすることができた。指導者の皆さんのが蒔いた種が時を経て開花している様は、心に響くものがあった。